

協議会ニュース

40号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1992.7

ティカズラ(キヨウキクトウ科)

1991.6.10

小牧大山近くの民家の生垣を
おおうように咲いていて
雨天のうつとおしさを一時
忘れる思いでした



- 常緑つる性で
付着根をだし
- 茎は長く伸び
他の樹などにからむ。
わから風車のようにねじれ
- 花は先か5つに
6月頃、白~黄色で咲き
良き香がある。
- 葉は対生で光沢があり
新緑の時節に
一枚づつ真赤になります。
- 実は細長い円筒状で
2個づつ垂れ下がる

絵と文 後藤 春

私のフィールド

日進町の植物

尾張支部 横井 邦子

名古屋に来て20数年になります。学生時代は植物同好会に所属し、房総半島の清澄山で植物観察に夢中になっていました。仕事と子育てに追われすっかり植物観察から離れていましたが、5年ほど前同じ職場の方に誘われて日進植物同好会に入り、又々昔の虫が騒ぎだし町内を歩き回っています。

愛知郡日進町は尾張丘陵の東部に位置し名古屋市に隣接した町で、宅地造成が進んでいますが、いまだに至る所に自然が残っていて「いつでもどこでも自然観察」の実践に最適の所です。植物地理的には、気候的要因としては寒地系要素と暖地系要素、地史的要因としては大陸系要素と東海要素など入り組んで、大変種類の豊富な植物が生育しています。月に1回町内をフィールドにした観察会が開催されます。五色園と天白川流域について主に紹介しましょう。

五色園は大安寺の境内というより宗教公園で丘あり、池あり、湿地ありと変化にとんだ植物観察ができます。丘は砂礫のやせ地で、クロマツ、アカマツ、コナラ、ソヨゴが多く、中木層としてシャシャンボ、ネジキ、リョウブ、ヒサカキ、下草のコシダやウラジロの繁みの中に、ツツジ、コバノミツバツツジが春には彩りを添えます。湿地には池の水と湧水が良い条件を保ち、モウセンゴケ、ミミカキグサ、ノギラン、ミズギク、スイラン等で植生を作っています。貴重なサギソウもあり、秋にはシラタマホシクサも咲き揃いますが、今年はまだ盗られずに残っていたと胸をなで下ろしています。秋には木の実図鑑さながら、ソヨゴ、シャシャンボ、ウメモドキ、アズキナシ、ヒサカキの赤や青い実を眺め、運が良ければアケビの実を頂戴することもあります。

次に、天白川は名商大の裏の森を水源に、日

進町、天白区、南区、港区を流れ、名古屋港に注いでいます。コンクリートの堰堤が多い昨日進町内の天白川は自然の手付かずのままの土手がほとんどで、春、夏、秋と野草、雑草の観察に絶好の場所です。

水源の三本木付近にだけモンゴリナラが見られ、林の中にはスズカカンアオイ、ヒメカンアオイが群生しています。少し下ると川の片側に田畠が広がり、春の七草探しで3月の観察会が始まり、コオニタビラコ、タネツケバナ、レンゲ、オオイネノフグリと春爛漫のどかな風景が展開します。

町役場の裏から野方橋にかけては、夏、土手の縁にヤブカンゾウが美しく、ナワシロイチゴの実も熟しジャムや果実酒を作る人もいます。日陰になるような木もなく、ヤブガラシ、カナムグラ、クズ等で川原は覆われ、草いきれとヤブ蚊に悩まされ、観察会も忍耐が必要だと思ってしまいます。年々帰化植物の占める割合が増加し、メリケンムグラ、キヨウソウ、マメアサガオなど新顔も登場しています。その中にスズサイコやヒメヤプランを偶然見つけたり、昨秋はカワラナデシコ、ツリガネニンジン、ワレモコウ、ススキが咲き乱れている土手があり、風に揺れる様を見取っていました。

そのほかにも領守の森の白山宮があり、町内では最も古い社寺林で、昼でも鬱蒼として「トトロの森」になりそうです。七五三で賑わう頃様々のドングリ拾いが楽しめます。

また、御嶽山も靈山として林が保護されているため、アベマキ、タカノツメ、オオバヤシャブシなど広葉樹が多く、早春、オオバヤシャブシの黄緑色の花と色とりどりの新芽で、遠くからの眺めは格別です。

平成4年度、観察会では「川を調べる」を年間のテーマとし、天白川と支流の岩崎川の流域の植物、鳥を調査しています。その資料を元に自然の堤防の状態で残して欲しい箇所を町に要望できればと願っています。

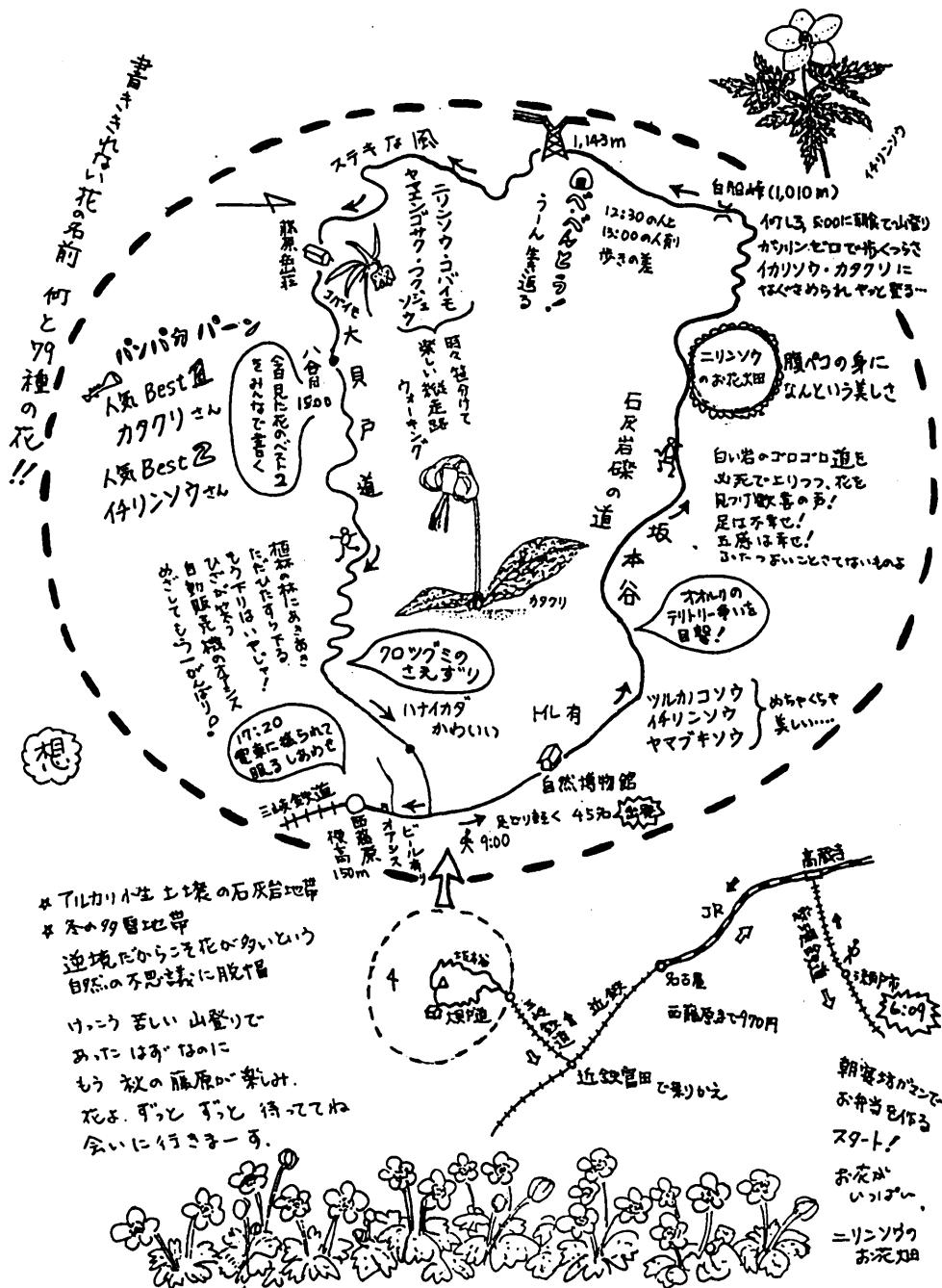
尾張支部 視察觀察会

花 の 藤 原 岳

尾張支部 曾我部 行子

風薫るゴールデンウィークの4月29日に尾張支部の特別企画第1弾、花の藤原岳観察会が開かれました。

快晴にも恵まれ、指導員、友の会に一般の人も加え45名の参加があり、色とりどりの花を堪能した一日となりました。その様子をアクション風にまとめてみました。



観察会報告

わくぐり神社と牛の滝自然観察会

(県委託・4月26日)

東三河支部 中島 芳彦

参加者 — 一般47人、県関係3人、指導員14人

テーマ — 人と自然との関わりを考えよう

結果

下見の時は全て雨、もし雨だったらどうしようとの心配は、吹き飛ぶ晴天、良かったー。

指導員は9時に集合し、会場案内板の設置や歩測測定の準備に追われ、時間が矢のように過ぎ去る。



10時観察会開始。県自然保護課稻垣補佐の挨拶の後、3班に分かれ各班を指導員が誘導し各ポイントを移動する。その後、急な階段を登りわくぐり神社前広場で間瀬さんより神社のいわれの説明後、歩測測定、トイレ休憩の後、牛の滝を目指して出発。途中、伊能忠敬になったつもりで距離を測定する。歩測の結果、280mズバリが3名。ビックリ。この時、子供達は空腹で疲れ切り声も出ない。あと、ひと頑張りだ。滝の上の橋で、人と水・川の関わり、さらにカワガラスの話を聞き滝壺までおりて、待望の昼食。先週の下見では臭気が周りを包みここでの昼食は無理かと考えたが、雨後の増水ですっかり綺麗になり快適な昼食ができた。しかし、人と自然の関わりを考えて欲しかったテーマが1つ消失したが自然は美しいほうがいいものだ。短い昼食後、滝の話や滝の周りの植物の話を聞

き14時10分、班編成を立て直し東上駅に向かいまっしぐら。総括、会長挨拶、事務局連絡のあと14時50分解散。参加者及び会員の皆さんお疲れさまでした。

磯の生き物観察会(県委託・5月31日)

知多支部

場所 — 美浜町野間

参加者 — 140人、指導員 — 15人

好天に恵まれ、よい1日であった。有料道路利用者もあり、午前11時20分すぎての参加者もあった。

身近な自然の森観察会

(全県一斉・6月7日) 知多支部

場所 — 半田

参加者 — 70名、指導員 — 5名

若いお父さん、おかあさん、幼児が多かった。

小幡緑地自然観察会

(全県一斉・6月7日) 名古屋支部

参加者 — 14名、指導員 — 13名

テーマ — 見たり・聞いたり・触ったり 身近な自然を観察しよう

自然の中でいろいろな生き物を見つけ出す。

たたき網：アナグモ・クサグモ・アカグモ

・ハムシ・カメムシ・ハナムグリなどなど名前が分からないので適当に名前をつけて楽しみました。

水生動物：プラナリア・コウガイビル・コカゲロウ・トビケラ・イトトンボの幼虫・ユスリカ・イトミミズ・ボウフラ・アメリカザリガニ・ヨシノボリ・ヘビトンボ・アメンボ・ヒメタイコウチなどなど、皆でさがすといっぱいいるものです。B腐中性河川、日頃は清水だが時々家庭排水が入りこむようです。

ペイトトラップ：ミユマアカアリ・ゴミム

シ・シデムシ・モリチャバネゴキブリ・エンマコガネ・オサムシ 前々日にしかけたもの、いっぱいいかかっているものの、生臭い臭い。

池が干上がった跡：カズノコグサ・ヒメコバンソウ・カラスムギ・マツバウンラン・ニワゼキショウ・コウガイゼキショウ・キツネノボタン・ハハコグサ・チチコグサモドキ・キキヨウソウ・マメダオシ 色とりどり、多様な植物の発見に指導員の方が喜んでいた。

リンゴの原種（＝ズミ）・ナシの原種（＝マメナシ）・カキの原種があり、これが野性のものかと妙な顔をしていました。

今日一日で、沢山の小さな生き物たちに出会うことができました。人は、生命との出会いを積み重ねることで、地球の上には多種多様な生き物が住んでいることを知り、この地球が人間だけのものでないことを分かってゆくと思います。自然観察会の積み重ねが環境教育の広がりにつながれば、こんな嬉しいことはないと私は思っています。（なんじゃもんじゃ通信より）

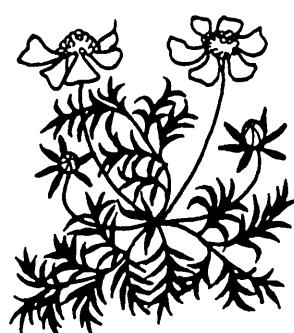
た。以下、印象深い植物を紹介しておきます。フクオウソウ（キク科）・ワタムキアザミ（キク科）・サワギク（キク科）・ミヤマタニソバ（タデ科）・マムシグサ（サトイモ科）・スルガテンナンショウ（サトイモ科）・ウスギヨウラク（ツツジ科）・コケイラン（ラン科）・シラネセンキュウ（セリ科）・ヤマイワカガミ（イワウメ科）・コアジサイ（ユキノシタ科）・タマアジサイ（ユキノシタ科）・ミツバウクギ（ミツバウツギ科）・フクロシダ（ウラボシ科）・クジャクソウ（ウラボシ科）・キヨタキシダ（ウラボシ科）以上。

水梨川流域自然観察会

（全県一斉・7月6日）奥三河支部

奥三河支部は、北設楽郡津具村地内の水梨川流域で自然観察会を実施したが、当日は生憎、朝から雨、日中は更に悪くなるとの天気予報で少々がっかりした。

10時に東栄町の古戸小学校前に集合。参加者は7名（会員5名、一般2名）であった。山深い谷川の水梨川流域の目的地に車で移動、時々降る雨の中を約2時間にわたって観察した。水梨川流域は、ガクウツギやマルバウツギが花盛り。時たま、バイカウツギが梅の花を思わせる白い花をつけており、目を楽しませてくれる。クサソテツ（コゴミ）の大群生地も見つかり、食通の話題が尽きない。また、対岸の樹林にはサルが一頭？木の枝葉で身を隠しながら、我々の動向を常に監視し身近に移動している。まさに、大自然の素晴らしさを満喫した一日であっ



東山観察会・トウキヨウサンショウウオの卵

四月一九日日曜日、昨夜来の雨がまだやまず、小雨の中を期待に胸トキメカセながら、集合場所の東山植物園前のロータリーへと急ぐ。昨年から私の先生でもある先輩指導員の武田篤さん鈴木晃子さんから出るぞ、でるぞと聞かされていたトウキヨウサンショウウオの卵がそろそろ出る頃なのです。その期待に胸おどらせて出かけてきたのです。すでに鈴木さんが来て湿地の保護作業をしていました。あいさつをすると鈴木さんがさっそくサンショウウオの卵が見つかったと知らせてくれました。出発前のあいさつの時に武田さんが二人の外国の青年を連れて来て紹介をしました、アイダホとカリフォルニアから来たダンとポールです。さて出発です今日のテーマは『春はおいしい』です。毎回武田、鈴木、両先輩の感性あふれるテーマに心がなごみます。小雨の中新緑の雑木林から裏山公園の脇を通り池のある雑木林へ進んで行きます。ダンとポールもカタコトの日本語で質問をし、皆んながカタコトの英語で答える、不思議な観察会が進んで行きます。ポールがきのこをみつけてイートと聞く、佐土根さんがN0ボイズンと答え、ポールがあわてて手をひっこめていたりして楽しい一コマもありました。然し私は何を聞いてもうわのそらです。早く見たいの一心です。トウキヨウサンショウウオの卵です本当に名古屋市内にトウキヨウサンショウウオの卵があるの？半信半疑の気持ちです、やがて雑木林の中の林道の途中で立ち止まった鈴木さんがおもむろにココですと足元を指さしました、エッと思って見ると一米四方ぐらいの水たまりです。それも道路の上の深せいせい7~8cmの何の変哲もない水たまりです、まわりを良く見てみると4~5mはなれた、林道の土手から水が少し流れだしている、その水が流れで道路に水たまりを作っているのです、鈴木さんが水の中に無造作に手を入れてすくい上げた手の上にはまぎれもないあの半月型のトウキヨウ

サンショウウオの卵です、それも一対あるではありませんか！しばらくは言葉がありませんでした。近づいて良く見ると卵のうの中でわすでに孵化した1cm余の幼生がうごいているのが見えます、感動です！名古屋市内でトウキヨウサンショウウオが繁殖しているのです、このすぐ近くでは153号バイパス工事で山が切りくずされているのです、テニスコートの為に山がけずり取られています。なんとかこの自然を残さなければと心の中で叫んでしました。

ここで少しトウキヨウサンショウウオについて書いて見ます。サンショウウオ科が5つの属にわかれその中のカスミ属が2つにわかれてカスミ系とマダラ系にわかれたカスミ系の中の6種の中の一つです、その6種とは本家のカスミサンショウウオ、トウキヨウサンショウウオ、オオイタサンショウウオ、ツシマサンショウウオトウホクサンショウウオ、エゾサンショウウオ、クロサンショウウオ、アベサンショウウオです、東山のサンショウウオがはたしてトウキヨウサンショウウオなのかカスミサンショウウオなのか私は専門でないので良くわかりませんが今後も追跡調査をしてゆきたいと思っています。その他にカスミ属のマダラ系にブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ベッコウサンショウウオ、オキサンショウウオがあり今後それらの生態について勉強をして行きたいと思っていますので情報をおもちの方わお知らせ下さい。さて東山観察会にもどります、この日のテーマおいしい春です、サクラの葉、カキの葉、セリカラスのエンドウ、スギナ、タケノコ、ヨモギの天プラ、タケノコのさしみ、ギシギシの土佐あえ、タンポポサラダ、セリのゴマあえ、スギナのお茶とおにぎり、素晴らしいメニューです私は午後別の会合のためこのランチ食べることができませんでした、残念でした。

名古屋支部

篠田陽作

全県一斉観察会（尾張支部）報告

テーマ トトロの森をさがそう！

日 時 1992/6/7 9:30-14:30

場 所 犬山市善師野

参加者（敬称略、五十音順）

指導員：安藤、岩田、大竹、齋竹、富山、長野、西村、平井、伏屋、松尾、三輪（千）、三輪（鶴）、村田、山田、横井

友の会：伊藤、古田、山田

一 般：石田、後藤、鈴木、祖田

家族等：子供 6名

おもな観察事項

環境問題を考える契機にと設定された環境月間の行事として取組んできた「全県一斉自然観察会」を犬山市の善師野で行いました。東海地方に梅雨入り宣言が出され、今にも雨が降り出しそうな雲の厚い空模様でしたが、途中でポツポツとはしたものの、参加者の心がけがよかっただのでしょうか、何とか終わるまでもちました。

この日のテーマは、「トトロの森をさがそう！」で、身近な雑木林を観察しようというものです。善師野のコースには、常緑樹のアラカシの森、落葉樹のアベマキ・コナラの林、竹林、それにヒノキの人工林があり、それぞれの森を比較できました。

善師野駅のホームでは、古いヒイラギの木で、葉が尖っていないことを観察し、駅から白山神社までのたんぽに沿ったコースには、さまざまな野の花が咲いていましたが、マツバウンラン、キキウソウ、シロツメクサ、コメツブツメクサ、ヒメジョオン、アメリカフウロ、オオイヌノフグリ、ムシトリナデシコなど外来種の多いのに驚いていました。ここでは、よく似た仲間のカラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサの3種の見分け方も学びました。また、ウツギの花が目立ち、ティカカズラの白い花は周りに春らしい芳香を漂わせていました。

しかし、5月の下見のときに大洞池のほとりにあったキンランは、心ない人に掘っていかれ、この日は姿を見ることができませんでした。

昆虫多くの種類のものが見られ、蝶ではウラジロシジミ、アカシジミ、ミズイロオナガシジミ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、キタテハ、テングショウ、アゲハショウ、キアゲハ、モンシロショウ、モンキショウ、ゴマダラショウ、ヒメウラナミジャノメなどの成虫とヒオドシショウの蛹が見つかり、蛾ではシラガタロウと呼ばれるクスサンの幼虫、イラクサノ仲間の葉を食べ、振動に反応するフクラスズメの幼虫などが人気を集めましたが、ドクガの仲間の幼虫にも出会いました。何事も経験ということで、クスサンの幼虫に触って毛が意外に堅いと感じた人も多くいましたが、まだ気持ち悪いといって触れない人もいました。また、大洞池のほとりのエゴノキにはオトシブミがたくさんぶら下がっていました。その他、ジョウカイボンや竹を食べるベニカマキリ、白山神社の地面に巣を作って飛び回っていたウツギヒメハナバチ、セイタカアワダチソウについたアブラムシを食べに集まっていたナナホシテントウなどさまざまな虫に出会えました。

野鳥では、暗渠のコンクリートのU字溝に逃げ込んだメジロの幼鳥、電線で鳴いていたキセキレイ、木の梢でさえずっていたホオジロ、大洞池のカツツブリとカルガモの姿を目撃したほか、ホトトギス、イカル、キビタキ（？）の声を聞くことができました。

こうした、さまざまな生き物たちとの出会いはありましたが、一方では、駅前の善師野川がコンクリートの3面張りにされ、昨年までたくさん見られたゲンジボタルの生息が危ぶまれるようになったこと、白山神社の林が切られずいぶんと明るくなってしまったこと、大洞池から流れ出た小河川の岸辺の林が伐採されたことなど、「トトロの森」が壊されつつある姿も目にしました。

もっともっと多くの人たちにこの身近な「トトロの森」の良さを知ってもらい、自然の破壊を防止するための声を大きくしていきたいと感じる1日でした。

報告／齋竹

東海市における大型鰐脚類ホウネンエビ・カブトエビの発生について

知多支部 相地 満

1 はじめに

6月になると、東海市の水田でホウネンエビ・カブトエビが発生します。かつてこの近辺ではホウネンエビのことをタキンギョと呼び子供たちに随分親しまれていました。それを桶に入れ、町に持つて行って売ったりもしたそうです。現在ではさほど多くの人に知られている訳ではなく、むしろ見かけたと言う人の数の方が少ない様です。初めて見た人はその姿のおかしさ、物珍しさに驚きの声を挙げ、目を見張ります。発生の仕方に特徴があり、大発生と衰退とを一定期間において繰り返すようで、その仕組みは大変興味深いものがあります。

2 発生の様子

下表は私が観察してきた地区の過去17年間の発生状況を示したもので、わずかな発生の後、大発生が続き、そして消滅していく様子が良くわかります。ただこの場合の消滅が自然消滅ではなく、埋立て(×印)である点が観察者としては残念な所です。この後また大発生を繰り返すのかどうかこの記録からはわかりません。

表 ホウネンエビ・カブトエビの発生状況

757677787980818283848586878889909192																
ホウネンエビ	・	○	○	○	○	○	・	・	・	・	・	・	・	・	・	×
カブトエビ	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	○	△	×	
カブト大田	・	・	・	・	・	・	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
エビ類	・	・	・	・	・	・	○	△	×							

・わずか ○大量 △やや多い ×埋立て 消滅
いずれにせよ長らく観察してきた田の殆どが

91年の夏以後埋立てられてしまいましたので、今後は、他の観察地を探さねばなりません。

3 発生の意味するもの

ホウネンエビ・カブトエビの発生は突発的であるため、また人目にふれやすい所であるため、しばしば新聞・TVで報道されます。姿形や生

活の仕方も独特のため良く興味をひくわけですが、発生の意味するものについては充分語られていないようです。多くは生きる化石としての紹介に終っています。それ自体間違いではないし、興味深い事ですのでニュースとしての価値がある訳ですが、それがなぜ大量に人目に着きやすい所に突然出てくるかと言う事について考えを深めない限り、自然を見る目、自然の仕組み(生き物とおしの繋がり)、しいては環境を見る目は育たないだろうと思っています。ですから『地球的な規模での環境破壊が進んでいる中で、自然が戻ってきたということがあるのだろうか』(カブトエビについてのある報道)といった混乱に陥ったりもするのだと思っています。

大型鰐脚類は水生昆虫などの格好の食餌の対象です。ですから豊かな水田の水生昆虫相が崩れれば大発生すると私は考えています。つまり、ホウネンエビ・カブトエビの大発生は生き物とおしの繋がりが崩れて捕食者である動物相が貧相になった水田に見られるのだと思っています。だから周りを雜木林に囲まれた水田には出ず、道路や人家に囲まれた水田に出てくるのだと思います。その意味では、水田の生物環境が崩れていることの証ともとれます。だがかつての農薬の大量使用によって水田から稻以外の生き物が消えてしまった、と言われた時代がありましたが、それに対してはここまで回復したと言う言い方も出来るのではないかと思っています。

同じ東海市でも船島での発生は土地改良や宅地化によって周辺の自然環境が悪くなり、比較的豊かだった水生昆虫相が崩れてくる中での発生であり、大田のそれは何も縛めなかつたような水田からの一部回復とも考えられるのではないかと思っています。

4 おわりに

生物を使った水田とその周辺の環境区分についていつかまとめてみたいと思っています。

同じ大型鰐脚類のカイエビが昨年平州小学校の観察池に発生しました。同校の吉川先生と共に観察を続けていきたいと思っています。6/10

乾いた砂と湿った砂

-- 砂のおもしろ性質 --

東三河支部 高橋 康夫

砂浜を歩くとき、あなたは波が打ち寄せては引いていく湿った砂地と乾いてサラサラしている砂浜のどちらを選びますか。乾いた砂地は一足ごとに足を取られ、とても歩きにくくに比べて、湿った波打ちきわは、歩きやすいですね。最近四輪駆動の車がふえ、海岸を走り回っているし、オートバイも入り込んでいます。それらのタイヤの跡を見れば、湿った所が走りやすそうです。

砂は水を含むと固く縮まるのです。砂の中に入り込んだ水が、砂粒を滑らないように支えていると考えられています。

しかし、湿った砂を、足でふみながら小刻みに揺すってみると、どろどろになってしまいます。「揺変性」と言い、一見固そうに見えて、小刻みな力で揺すられるとは柔らかくなるような面白い性質をもっています。

地震が起こったあと、田んぼの真ん中に突然、小さな砂の山ができている写真を見たことはありませんか。地震によって、地下の砂の堆積層が揺すられて、どろどろになりふき上がったものです。

このようなふき上がりの様子を地層で見ることができます。地層の向きとは垂直な脈状の砂岩です。地層が固まらないうちに、先に積もっていた砂の層が地震によって揺されられて上の層を突き破ってできた、まさに「地震の化石」と言うべきものです。



～投稿～

自然観察指導員のひとり言

尾張支部 北岡 明彦

最近はやりの「地球にやさしく」について、時々考えてしまいます。地球にやさしくなんて人間のおごりそのもので、地球にやさしくしてもらうためにはどうすべきかが本当の姿だということは当然ですが、それでは、私たちには何ができるでしょう。

いわく、ディーゼル車は排ガスがガソリン車より10倍も大気を汚す・・一応ガソリン車に乗っているから、まあ合格。

そんなことより、車に乗らない方がずっと良い・・できるだけ相乗りしていることで、少し自己満足。

いわく、ゴルフ場は自然破壊の元凶だ・・私はゴルフしないから合格。

いわく、採集はしない方が良い・・種類を記録に残すべき最少限の採集を自分のフィールドだけでおこなうことで勘弁してください。

いわく、自然破壊が進みつつあるのに黙っていていいのか・・ム・ム・ム

考えれば考えるほどジレンマに陥ってしまいます。自然を観察し新しい発見をすることは、本当に楽しいことです。この喜び、楽しさを一人でも多くの人に伝えることが、私たち自然観察指導員の役割です。

しかし、現実の身の回りの環境破壊に対してそれだけでは、ほとんど無力なのは確かです。うーん、自然が本当に好きな人達は、今、なにをすべきなのでしょう。生活・家族・仕事いろいろを絡みを考えるとちっとも良い結論は出てきません。

こんなことを考えていると、頭は白くなり、かつ薄くなるばかりです。困ったなぁー。

結局、自分の良心が最低限度自己満足できる程度に、自分なりにやるしかない。あたりまえの結論が出ただけでした。

皆さんのご意見を聞かせて下さい。

自然観察施設訪問 7

石川県白山自然保護センター

中西 正

一昨年(1990)夏の見学で、尾張の山田さんと一緒に登った。

白山登山の前日、ここに寄った。我々の登山コースは白峰からなので、スーパー林道沿いにあるこのビジャーセンターは離れた位置にある。開館時期はスーパー林道より早いが、現在は林道利用者が対象ではなかろうか。標高650m、蛇谷沿いにあり、川原はずいぶん下の方にある。このセンターは平屋で、駐車場も広くなく、景色の中に溶け込んでいた。

玄関から入ってすぐのホールでは、木の輪切りが目を引く。この大木の輪切りは、白山の原生林を連想させる。ホールの左側には学習室とレクチャールームがある。ここで、スライドを使って、白山の地質・生物の解説を受けた。

ホールの右側は白山の資料展示である。中でも印象に残ったのは、夜の原生林展示である。原生林のジオラマを、小さな穴から覗くようになっている。昼間の様子は実際に足を踏み込めば目にすることもできるが、夜のそれはこんな展示でしか目にはすることはない。

所員は白山をフィールドとした研究者で、話には説得力があった。センターの裏には自然観察園・野猿広場、前には川の生態観察園がある。このセンターの解説エリアはこれらの自然だけでなく、白山全体である。それだけにどの自然でも共通するような説明とは異なり、白山の自然が迫力を持って伝わってきた。翌日白山に登ったが、残念ながら解説を一つ一つの実物と対応できるまで消化できなかった。しかし、説明を受けた概要は頭の隅に残り、充実した登山になった。

ちなみに、頂上室堂では、一般登山者を対象とした自然観察会が毎日何回か行われているようだった。時間になると、旗を持った解説員が広場に出てきて、参加者を募る。人が集まり次

第、お花畠での自然解説をしていた。登山者も、室堂まで来れば時間もあり、時間つぶしにはもってこいの企画かと思った。見ていると、結構人も集まっていた。



簡単なウッドクラフト ②

名古屋支部 椿 幹雄

セイタカアワダチソウの茎を利用して鉛筆とボールペンをつくってみませんか？

I. 準備品

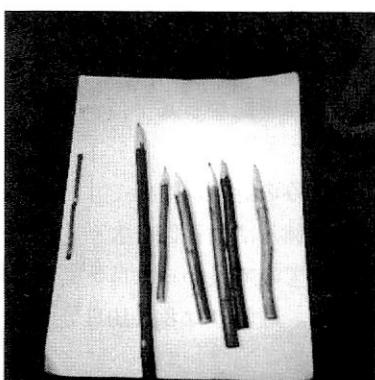
- 1) セイタカアワダチソウの茎
(長さ40cm位で手に握り易いもの)
- 2) ボンド
(手芸用か木工用)
- 3) 鉛筆の芯
(製図用、1本)
- 4) ボールペンの芯
(1本)
- 5) カッターナイフ

II. 作り方

- 1) セイタカアワダチソウの茎を、カッターナイフで20cmに切り揃える。
- 2) カッターで茎の先を、鉛筆の様に削る。
- 3) 鉛筆の芯・ボールペンの芯にボンドを塗り茎に差し込む。
- 4) ボンドが乾いて芯が動かなければ鉛筆の芯先を削って完成。

III. 木の枝を使用する場合

三ッ目錐の角をボールペン、鉛筆の芯より少し太い位に削り落とし（ヤスリ等で）木の中心に向かって穴をあける。後の工程はセイタカアワダチソウと同じ。



自然だよ！

ものみ山だより

尾張支部 北岡由美子

海上の森は、若々しい緑の海が、輝いています。4月26日のものみ茶屋は、なんと400人程の方が茶屋と物見山に来て下さり嬉しい悲鳴を上げました。モンゴリナラモチにひかれてみえたのか、春爛漫にひかれてみえたのか定かでありませんが、相乗効果でしょう。羽が少し傷んでいたものの、ギフチョウも山頂や山里に10数頭出現して、大半の方がなんらかの形で見られたのではと思いました。『野性のギフチョウ』を見たのは初めて！テレビではよく見るんだけど、いるもんだね一信じられない！という声が多数上がりました。ギフチョウなどはテレビで見るものと思っていたのに・・感激！という感じでギフチョウの生きた姿を、この里山にぶらっと来れば見られるという事だけでも、この森の価値はあるのではと思いました。

また、この日の参加者は子連れの方が多く、子供達は海上の沢でサワガニ捕りやドジョウ掘み等いつまでも楽しんでいたし、山に囲まれた田畠の間を思いっきり駆け回っていました。山里で子供が遊んで遊んでいる姿はとても自然でした。大人も子供も「自然」になれる所、自然な姿を教えてもらえる場所が里山ではないかなーとおもえました。

5月31日には「どうする自然、21世紀愛知万博」が開催されました。定員700名の大会議室でしたので、はたして何人集まるかと心配していましたが、400人近い参加者が訪れ、話題の拡がりにびっくりしました。講師の関係で、河合塾の若い子が多く活気がありました。参加者は広く県内に及んだばかりでなく、三重・岐阜・静岡からもあり、大変嬉しくおもいました。なお、指導員の方の参加も10名を越え、大変有り難うございました。

7月～9月の行事案内

*他支部の行事にも参加出来ますが、急な変更があるかもしれませんので照会の上、御参加下さい。

- ①主催 ②集合場所・時間 ③照会先
- ④行事のねらい ⑤参加資格・費用 ⑥備考

【7月10日（金）虫の音の鑑賞】

- ②阿久比町中央公民館・室内研修 18:30～
- ④講師 水野利彦 ⑤一般・無料

【7月12日（日）裏谷原生林観察会】

- ①尾張支部 ②段戸湖湖畔駐車場
- ③北岡明彦 ☎0561-84-2953
- ④愛知県一の巨木林を歩こう

【7月19日（日）八事裏山観察会】

- ①名古屋支部 ②植物園ローラー 9:30
- ④ムサシミガキケとハチヨウトボを観察、東山八事裏山観察会に合流

【7月26日（日）阿久比川の生き物調査】

- ①知多自然観察会 ②阿久比町中央公民館 8:30～
- ⑤一般参加可・無料

【7月26日（日）長篠城～鳴ヶ池山観察会】

- ①奥三河支部・県委託 ②JR長篠 10:30
- ③石川静雄 05362-2-1171 ④長篠の戦い史跡、自然探訪
- ⑤一般・無料

【8月8日（土）～9日（日）一泊研修会】

- ①東三支部 ③神戸敦 ☎0532-62-5308
- ④赤沢休養林、秘湯もしか温泉で研修

【8月9日（日）岐阜県美山町神崎観察会】

- ①尾張支部 ②美山町役場 ③北岡明彦
- ☎0561-84-2953 ④川遊びと渓谷の植物探し

【8月23日（日）東三河滝めぐり】

- ①東三支部 ③高橋康夫 ☎0532-62-2204

【8月23日（日）平和公園観察会】

- ①名古屋支部 ②平和公園南、新池北ペ-ゴルフ場9:30 ④サギソウを訪ねて、平和公園自然観察会と合流

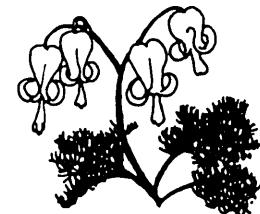
【9月11日（金）月と星の観望】

- ①知多支部 ②半田空の科学館18:00～
- ⑤一般・無料

【9月13日（日）面ノ木観察会】

- ①尾張支部 ②面ノ木原生林
- ③鬼頭弘 ☎05613-8-2792
- ④ブナ林の秋の草花を楽しもう

～会員の動き～



【住所変更】

垣見 宏（名古屋支部）
〒456 名古屋市千種区内山2丁目10-22
☎ 052-732-3350

加藤丈治（知多支部）
〒454 名古屋市中川区富田町万場字才宮
☎ 052-432-5123

仲 芳則（名古屋支部）
〒454 名古屋市中川区下之一色町
字松陰3-9 ニューコーポ松陰610
☎ 052-351-6387

【脱退】

花井 啓（名古屋支部）

編集後記

★いよいよ、夏休みです。東三河支部は恒例の研修旅行があります。今年は、森林浴の発祥の地、赤沢休養林で研修後、もしか温泉でのんびり交流。翌日は妻籠から太平宿へと歴史の地を散策します。

★皆さんの夏休みの計画は如何ですか？ 次号では、会員の夏休み活動報告を大々的に載せる予定です。行ってみて良かった自然観察適地をご報告ください。締切りは8月10日です。

編集部会 〒440 豊橋市多米中町1-12-3

神戸 敦 ☎0532-62-5308